

第11回 TIAナノグリーン・サマースクール開催報告

丸本 一弘 教授
筑波大学数理物質系

環境・エネルギー分野のイノベーション、いわゆるグリーンイノベーションに貢献する人材を育成するための教育プログラムとして、本年もナノグリーン・サマースクールが9月6日から9月8日の日程で開催されました。実施・運営を行った丸本一弘教授(筑波大学数理物質系)にお話を伺いました。

【共同担当教員】

桑原 純平 准教授

武安 光太郎 助教



TIA 連携大学院サマー・オープンフェスティバル2023の一環として、2023年9月6日から8日までの3日間、第11回TIAナノグリーン・サマースクールが開催されました。コロナウイルス感染の改善状況も考慮し、今回は対面実施となりました。本スクールはナノグリーン分野の研究に興味をもつ学生および社会人を対象に開校されており、今回の参加者は計4名で、企業社会人1名、筑波大学院生3名でした。

今回も、講義では、世界第一線で活躍する7名の先生方を講師としてお招きし、それぞれ90分間で先端計測、化学変換、放射光による分析、光機能性有機材料、太陽電池など、ナノグリーン分野に関連する基礎から最先端の応用研究までの幅広い内容をお話いただきました。講義における参加者からは積極的な質問が多くなされ、産学問わずナノグリーン分野に対する参加者の関心の深さが伺えました。なお、参加者には、グリーンイノベーションに関する3つの課題から1つ選んで詳述する形のレポートを提出してもらうことで、グリーンイノベーションに対して自ら能動的に考える機会を与え、そのレポートを筑波大学の教員で評価しました。

講義以外の内容としては、1日目に行われた始業式では、教員紹介、参加者の自己紹介、課題発表に続いて、集合写真を撮影しました。撮影した写真は、今後の広報活動に利用させていただく予定です。

また、2日目に行われたプレゼンテーションセッションでは、参加者が事前に提出した研究概要に基づいて、10分間の発表を行いました。自分の研究をコンパクトにまとめて専門外の人にわかりやすく説明して頂きました。発表後の質疑応答では筑波大学の教員や参加者から多方面からのコメントがあり有益でした。この質疑応答に関しても参加者の皆さんには、積極的に取り組んで努力してわかりやすく説明しようとする姿勢が見られました。今回の発表の機会は、今後自分自身の研究を進めて行く上でのヒントを得るよい機会になったのではないかと思います。

講義終了後に行われた修了式では、出席者全員に修了証が授与され、記念撮影を実施しました。そして、研究概要、研究発表およびレポートが優秀と認められ、また、多くの質問を行い議論に積極的に参加した参加者には、さらに優秀賞が授与されました。

大学、特に大学院での多くの講義の形式は、教員の講義を聞いて、学生はその後自分で講義を振り返り復習することでその内容の理解を深めるという、いわば一方的な方向のものが多く、その傾向はコロナ禍のオンライン講義では強まる傾向にあったと思います。その中で、今回のサマースクールでのプレゼンテーションのように双方向のもの、特に学生が自発的に参加する機会は貴重なものだったはずですが、本スクールにおける経験は、必ず研究者としての参加者の成長に役立つことと考えています。

開催日	2023年9月6日(水)～9月8日(金)
会場	筑波大学 第三エリア F棟 6階 3F600
主催	筑波大学大学院数理物質科学研究群、エネルギー物質科学研究センター(TREMS)
共催	物質・材料研究機構(NIMS)
構成	講義7コマ+プレゼンテーションセッション(レポート提出)
参加者数	4名(社会人 1名、大学院生 3名)
受賞者	優秀賞 3名

TIA連携大学院 News Letterのバックナンバーは、ウェブサイトでご覧になれます。 <https://tia-edu.jp>



●編集・発行・連絡先：

国立大学法人 筑波大学 TIA推進室 tia-edu@un.tsukuba.ac.jp
〒305-8571 茨城県つくば市天王台1-1-1